



THE OPEN UNIVERSITY OF JAPAN

大学院博士全科生 2027年度入学希望者ガイダンス

情報学プログラム

<https://www.ouj.ac.jp/doctor/infomatics/>



情報学の定義

情報によって世界に意味と秩序をもたらすとともに社会的価値を創造することを目的とし、情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求する学問

(日本学術会議参照基準)

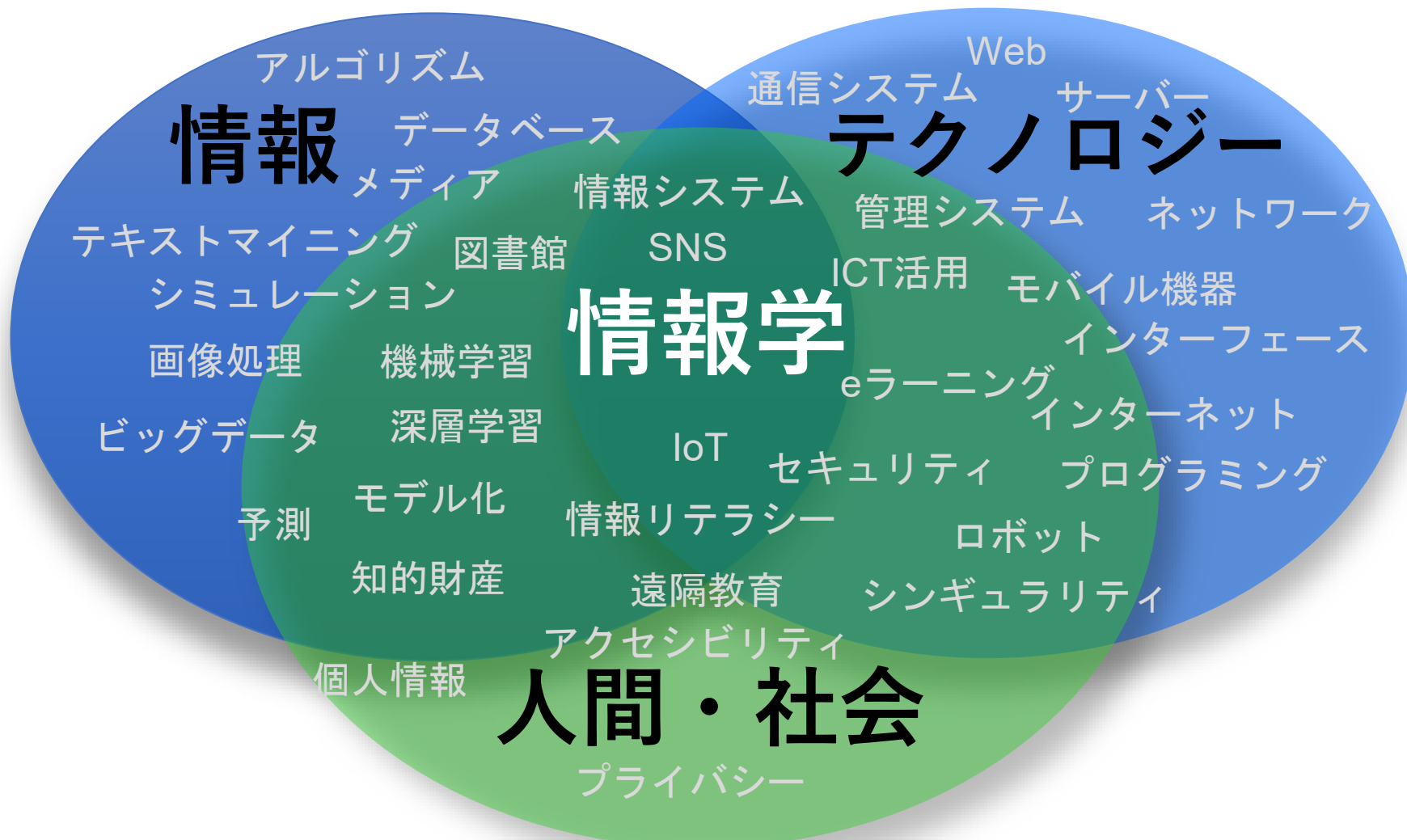
【放送大学 情報学プログラム（博士）で目指すこと】

情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求し活用する高度な自立的な研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に応用するとともに、情報とその処理、及び情報化が人間と社会に及ぼす諸問題を的確に発見し、その要因と背景を究明して問題状況の解決に取り組み、高度な指導力を発揮できる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成

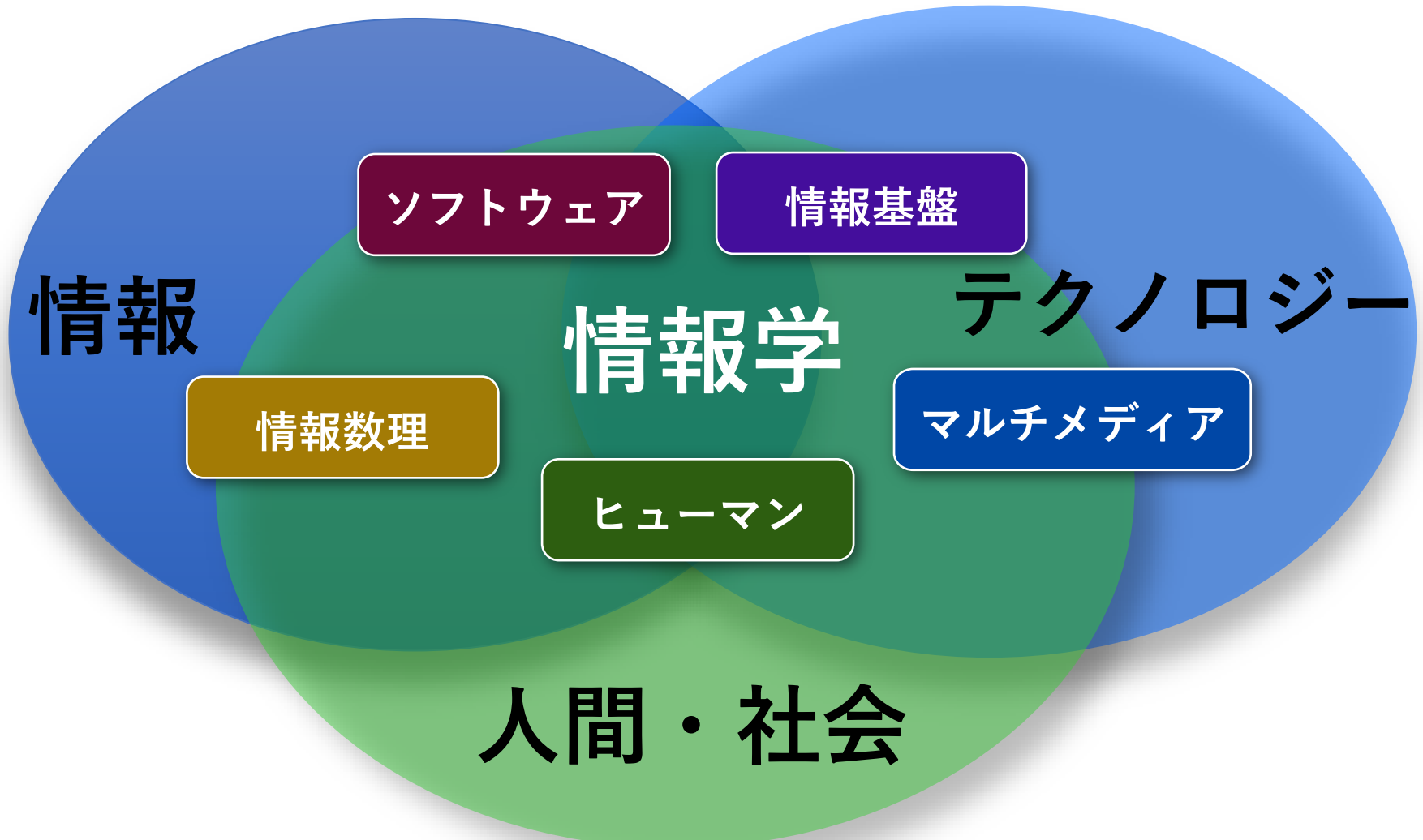
情報学を取り巻く世界



情報学を取り巻く世界



情報学プログラムの5領域



各領域と所属する教員

情報数理	数理モデルによる対象の分析、予測、最適化	秋光 大西	浅井 加藤
ソフトウェア	ソフトウェアの構造、原理、開発法	辰己 葉田	中谷
マルチメディア	コンピュータの外界やユーザとの接点	近藤 伏見	仁科 柳沼
情報基盤	情報通信の基盤技術	芝崎 辻	鈴木
ヒューマン	情報機器やシステムと人間及び社会との関わり	青木 平岡	中川

※ 今後、指導担当可能な教員が変動する可能性がありますので必ず願書の資料等でご確認ください。

1. 情報学・博士課程の特色

1.1 博士課程では

- 自立した研究者として必要最低限の能力を身につける
 - ・ 研究者としての「運転免許」（大学院重点化以降）
- オリジナリティ（独創性・新規性）を有する博士論文研究を行う
 - ・ 課題を見出し、妥当な（学界が認める）方法で解明する
- 研究成果を学術論文としてまとめ、研究者コミュニティで共有する
 - ・ 分野で共通するルールに則って論文としてまとめる

1.2 身につけるスキル

■ コアなスキル

- ・ 論理的思考力
- ・ 批判的思考力
- ・ 客観的なものの見方
- ・ 分野の研究者コミュニティで共有する研究法

■ 研究活動に必要なスキル

- ・ 研究論文（査読付論文）を作成するスキル
- ・ 学会で研究発表し、研究者コミュニティで活動するスキル
（例：査読付き論文作成、英語での研究発表）
- ・ 研究資金を獲得するスキル

1.3 入学希望者に求めるもの

- 専門領域における基礎知識と研究法を身につけている
(修士課程を修了していることが望ましい)
- 学問への意欲がある
- 広い問題意識を持っている
- 好奇心がある・素直である・あきらめない・折れない
- 研究者コミュニティと社会に対して適切な関係をもち責任を果たす意思がある (研究者倫理)

2. 博士論文の執筆について

2.1 博士論文とは

■ レポート（報告書）と論文の違い

- ・ オリジナリティ（独創性・新規性）→ 学問知識への貢献
- ・ 仮説やリサーチクエスチョンといった形での問題提起

■ 博士論文の基本構成

1. 目的
2. 背景
3. 問題提起、仮説、意義
4. データの収集方法や実験方法
5. 結果
6. 研究結果の意義・考察
7. 今後の課題

2.2 研究計画を立てるにあたって

■ 研究テーマと研究対象を絞る

- ・ 在学期間・アクセスできるリソース等を考慮して焦点をしぼる

■ 何をどう研究するかの筋道をはっきりさせる

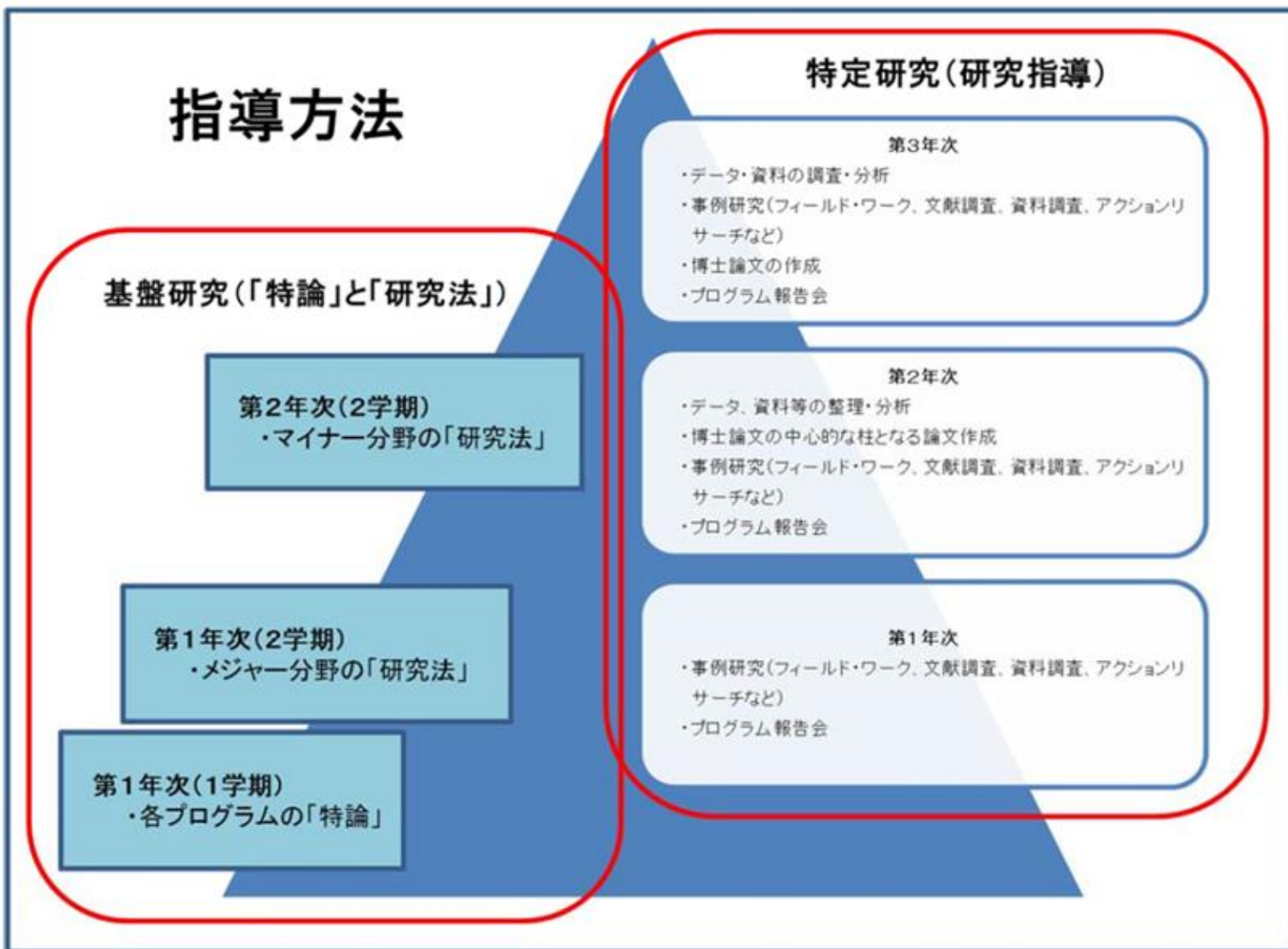
- ・ リサーチクエッションを明確にする
- ・ テーマの設定と研究方法は具体的にイメージする
- ・ エビデンスを客観的なデータで示せるようにする

■ 先行研究を調べる（研究の位置づけを明確にする）

- ・ 研究テーマに関して、どのような研究がなされてきたのかをまとめて、自身の研究のオリジナリティを主張する

3. 放送大学における 研究指導

3.1 研究指導の流れ



3.2 指導の方法

■ 指導教員によって、指導形態は異なる

- ・ 希望する指導教員の指導形態を確認
- ・ 情報学プログラムの場合は、電子メール、Web会議、キャンパスネットワーク、SNSを使用する

■ ゼミ形式が多い（個別指導も許容するケースも）

- ・ 月1-2回の個別指導と論文草稿添削（随時）
- ・ 年に1回のプログラム報告会での指導

3.3 研究指導の魅力

- ・ 多彩な学術背景・研究領域の教員との接点があり、異なった観点から指導を受けることができる
- ・ 多様なバックグラウンドを持つ仲間と交流できる
- ・ 職場や実社会の課題など実践的な内容を研究することもできる
- ・ 学会発表や査読付き論文執筆など、研究者としての実践的なスキルを身につけることができる

3.4 情報学プログラムの特色

- 文化科学研究科において学術研究を推進しながら、社会が求める人材育成にも配慮
 - ・ Society5.0など新時代における研究者像
 - ・ AI時代に求められる研究者スキル
 - ・ 人生100年時代（新たな生涯学習観）にもとづく大学院教育
- 新たな情報通信技術を活用した研究方法
 - ・ データ主導型研究（データサイエンスなど）
 - ・ 人類と機械の在り方

4. 情報学プログラムへの 出願にあたって

4.1 情報学プログラムへの出願

■ 博士論文の構成

1. これまでに何が明らかにされてきたか
2. 何が明らかにされていないか
3. 自分はどうアプローチしたか
4. その結果何が明らかになったか

- ・ 研究の意義，独創性・新規性を示すには 1.と2.が必要
- ・ 1. 2. のためには，先行研究の綿密な調査分析が必要
- ・ 3. 4. では結果の信頼性と妥当性を示すことが必要で、
そのためには自説以外の可能性を排除する証拠を示すことが重要

願書提出時点で1.2. はある程度かたまっていて、自分がどうアプローチするのかを示すことができることが望ましい

4.2 情報学プログラムへの出願

■ 出願する前に、事前問い合わせ（強く奨励）

- ・ 希望する教員名とテーマなどを書いて
in-nyushi@ouj.ac.jp までメールを

■ 博士課程は高度な専門性が必要

- ・ 領域妥当性
- ・ 指導教員の最終割当てはプログラムで決定

■ 情報学プログラムWebサイト

<https://www.ouj.ac.jp/doctor/infomatics/>

4.3 昨年度の博士入試結果から

■ 毎年、事前の問い合わせをせずに博士全科生出願する方がいらっしやいますが、最初から博士全科生にふさわしい研究計画を作成することは、一般に難しいです

■ 4.1の「博士論文の構成」や事前問い合わせの回答等を参考に、先行研究の綿密な調査分析を踏まえた具体的な研究計画を作成してください